

榛名山麓砂防堰堤群 <群馬県八幡川>

【所在地】群馬県箕郷町、榛東村など

【竣工年】1885年(明治18年)

【構造】石堰堤、土堰堤、積苗工、植樹

【特徴】榛名山麓は、地質が火山灰地であるため、「悪沢」や「自害沢」といった沢の名前が残されているように、脆弱な土地で集中豪雨のたびに土砂が流出する地域でした。明治時代には、利根川の舟運の確保が急務であったため、デ・レーケは「利根川流域も山林を保護しなければならない」と提言しています。

デ・レーケの指導を受けた内務省の宇佐美房耀及び米倉直司の両技師を中心に、巨石等を使用した石堰堤・土堰堤等の施設が整備され、現在もその使命を果たし続けています。

